

「適期に確実な防除」、「適切な畦間(うねま)かん水」で
収量・品質を高めましょう！

1. 病害虫防除 ～適期の病害虫防除により、高品質な大豆に仕上げましょう！～

○紫斑病予防や害虫防除のため、2回の基本防除は適期に確実に行うとともに、カメムシ類、
チョウ目幼虫等は発生状況に応じて適期に防除しましょう。

| 防除体系 | 防除時期の目安 | 対象病害虫 | 薬剤名 【粉剤体系】 | 10a 当たり 散布量 | 薬剤名 【液剤体系】 | 10a 当たり 散布量 |
|-------------|------------------------|------------------------|----------------------------------|-------------------|--|-------------------|
| 基本 (1回目) | 8月上中旬 (開花期～若莢期) | 紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ | スミチオンベルコート 粉剤DL (収穫21日前まで) | 3kg | プランダム乳剤25(4,000倍) (開花期～収穫7日前まで) | 150ℓ |
| | | | | | カスケード乳剤(4,000倍) (収穫7日前まで) | |
| 基本 (2回目) | 8月中下旬 (1回目の10～14日後) | 紫斑病 カメムシ類 | Zポルドートレボン 粉剤DL (収穫14日前まで) | 4kg | アミスタートレボン SE (1,000倍) (収穫14日前まで) | 150ℓ |
| 随時 | 7月下旬～8月上旬 | ウコンノメイガ (ハマキムシ) | ダントツH粉剤 (収穫7日前まで) | 4kg | プレバソフフロアブル5 (4,000倍) (収穫7日前まで) | 150ℓ |
| | 8月下旬～9月上旬 | マメシクイガ | | | | |
| 随時 | 8月下旬～9月中旬 | フタスジヒメハムシ (カメムシ類) | スタークル粉剤DL (収穫7日前まで) | 3kg | カスケード乳剤(4,000倍) (収穫7日前まで) | 150ℓ |
| 随時 | 8月下旬～9月中旬 | ハスモンヨトウ カメムシ類 | トレボン粉剤DL (収穫14日前まで) | 4kg | トレボン乳剤(1,000倍) (収穫14日前まで) | 150ℓ |

農薬の散布は、使用基準を必ず守り、風速・風向きに注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

2. 干ばつ時の畦間かん水 ～開花期から9月上旬頃までの畦間かん水により干ばつ回避～

- 開花期(7月下旬)から40日間は、大豆が最も水を必要とする時期です。
- 水不足は莢数や収量の減少を招き莢先熟(青立ち)やしわ粒の発生を助長することから、3日以上晴天日が続いた場合は、土壌の乾きに応じて短時間で畦間かん水を行いましょう。
- かん水は、ほ場全体に水が行き渡ったら水口をしっかり止め、速やかに排水してください。
- 9月上旬までは、土壌の乾き具合に応じて適宜かん水をしましょう。

畦間かん水

～開花期以降は水不足にしない～

【畦間かん水の効果】

- ・根粒の活性を維持
- ・稔実莢数、百粒重の確保
- ・莢先熟(青立ち)の発生防止
- ・しわ粒の発生軽減

梅雨明け後、暑い日が続いたら、積極的に畦間かん水を行いましょう！



うら面に続く

3. 雑草防除

【難防除雑草の発生に注意】

大豆ほ場への侵入・まん延を防ぐため、こまめに見回り、種子ができる前に除草しましょう。

(※抜き取った場合はそのまま放置せず、ほ場外で適切に処理しましょう。)

除草方法は各地区営農経済センターにご相談ください。

イヌホオズキ↓



マルバハコウ↑

○除草剤を使用する場合は、雑草の種類及び生育状況、大豆の生育状況から判断し、適期を逃さずに散布しましょう。

○畦間・株間処理は、吊り下げノズルが必要です。薬剤が大豆に直接かからないよう注意して散布してください。薬剤が大豆に付着すると葉が黄化する等の薬害が発生します。

| 薬剤名 | 対象雑草 | 10a 当たり散布量 | 使用方法 | 使用時期 | 使用回数 |
|---------------|-------------------------|----------------------------------|-------------|--|------|
| ポルトフロアブル | 1年生イネ科雑草 (スズメカビラを除く) | 薬量 200~300ml (水 100ℓ で希釈) | 雑草茎葉 散布 | イネ科雑草 3~10 葉期 ただし、収穫 30 日前まで | 1 回 |
| 大豆バサグラン 液剤 | 1年生雑草 (イネ科を除く) | 薬量 300~500ml (水 100ℓ で希釈) | 畦間処理 | 大豆の生育期(雑草 6 葉期まで) ただし収穫 45 日前まで | 1 回 |
| ロロックス | 1年生雑草 | 薬量 100~200g (水 70~150ℓ で希釈) | 畦間・株間 処理 | 本葉 3 葉期以降 雑草生育期(草丈 15cm 以下)ただし、収穫 30 日前まで | 1 回 |
| バスタ液剤 | 1年生雑草 | 薬量 300~500ml (水 100~150ℓ で希釈) | 畦間・株間 処理 | 本葉 5 葉期以降 雑草生育期 ただし、収穫 28 日前まで | 3 回 |

【難防除雑草（帰化雑草等）のほ場へのまん延防止対策】

難防除雑草が発生しているほ場は、結実前に抜き取り、または有効な除草剤を使用して対処するとともに、これ以上雑草がまん延しないよう、以下の点に留意して作業を行いましょう。

- ① 刈り払う場合は再生防止のために地際から行う（雑草は、ほ場外で処分する）
- ② 種子が結実してしまった場合、収穫後のすき込みは実施しない（地表面に落下した種子をそのまま放置し、発芽能力を低下させる）
- ③ 難防除雑草が発生しているほ場の作業は、可能な限り最後に行う（トラクター、コンバイン等で種子を移動させないため）
- ④ 機械の清掃を徹底する
- ⑤ 粗選別時のゴミは、ほ場外で適切に処分する

※培土作業について

1 回目の培土は、単作大豆を中心にかなり進んでいますが、2 回目の培土は降雨の影響を受け、作業が遅れています。

品質・収量の確保とあわせて、雑草の発生を抑制するため、排水溝を点検・補修し、ほ場の停滞水の排水に努めるとともに、**晴れ間をみて、速やかに培土を実施しましょう。**

農作業中の熱中症対策とあわせて、安全な作業の実施に努めましょう。

大豆情報第 5 号は、9 月下旬の発行予定です。